

## 執筆 者 紹 介

須賀 一好	山形大学教授 大学院文学研究科第6回修了
柳澤 良一	金沢学院大学大学院人文学研究科長・教授 第21回卒業・大学院第2回修了
村谷 佳奈	第61回卒業
松井 陽介	第37回卒業
畑中 榮	金沢高等学校講師・大学院第4回修了
長尾慎太郎	金沢大学大学院博士前期課程2年生
細川 遥	金沢大学大学院博士前期課程2年生

## 彙 報

## 会員著作紹介

※著作の刊行がございましたら、ご一報ください。

鈴木曉世『越境する想像力 日本近代文学とアイルランド』

(二〇一四年二月、大阪大学出版会)

高山知明『日本語音韻史の動的諸相と蜷縮涼鼓集』

(二〇一四年六月、笠間書院)

が刊行されました。両著とも本学教員によるものです。また、卒業生・修了生の方々の著作についてもいくつかご連絡がありました。これらについても合わせて次号くわしくご紹介いたします。

# 卒業論文・修士論文・博士論文一覧

## 卒業論文 二〇一四年提出分

- |       |   |
|-------|---|
| 稲毛美乃里 | 大庭みな子初期作品研究―「ふなくい虫」の否定性                 |
| 井波 聡美 | 開高健『輝ける闇』研究―「私」と開高                      |
| 上野 和美 | 江戸時代における百人一首歌仙絵の独自性<br>―『錦百人一首あづま織』を中心に |
| 我喜屋 累 | 多和田葉子『犬婚入り』論―倒錯する世界                     |
| 黒田 佳奈 | 円城塔『道化師の蝶』研究―SF作家の「純文学」                 |
| 古野 貴大 | 横光利一『寝園』論<br>―『無意識』による、「下界」の脱構築         |
| 小鹿 萌子 | 泉鏡花『卵塔場の天女』研究<br>―語り手槇村の観点から―           |
| 小林愛衣子 | 岡本かの子『老妓抄』論―他者に見出す〈憧憬〉                  |
| 佐渡 昌子 | 三遊亭円朝『真景累ヶ淵』研究―執念の物語                    |
| 高柳 知花 | 内田百閒『冥途』研究                              |
| 坪井 桂  | 待遇表現から見る『落窪物語』                          |
| 寺津 佑紀 | 『とりかへばや物語』の文末表現<br>―時制表現からみる語り          |
| 堀 詩美美 | 『放浪記』研究                                 |
| 堀 詩美美 | 能「源氏供養」研究―能の中に見る紫式部                     |
| 架谷 真紀 | 能「昭君」研究<br>―王昭君説話を利用した〈悲劇性〉の昇華          |

前田 彩伽 永井荷風『すみだ川』研究

前田亜由美 『こちらあみ子』研究

村上 美紗 村上春樹『ダンス・ダンス・ダンス』研究  
―ユキを中心に

村松 明優 言文一致に於ける二葉亭四迷『浮雲』  
―その文体と語法

山田 千尋 室生犀星『蜜のあはれ』―金魚という女ひと

吉田麻梨奈 芥川龍之介『六の宮の姫君』研究

谷内 俊介 ―新たに創造された姫君像を採って  
満洲文学における日本人像―日本人作家を中心に

## 修士論文 二〇一四年提出分

小嶋さおり 徳田秋声『あらくれ』論―お島役割

徐 朋朋 青春の代言者としての太宰治―初期三部作を中心に

## 博士論文 二〇一四年提出分

バジム・プシマキン 大江健三郎の初期、中期小説における〈政治的人間〉と〈性的人間〉の止揚

## 編集後記

## 「金沢大学国語国文」投稿規定

○「金沢大学国語国文」第四〇号をお届けします。今回も七本の論文を掲載いたしました。執筆者の皆様や査読をご担当くださった方々に御礼申し上げます。同時に、本誌の継続を支えてくださる

会員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

○昨年四月より新たに鈴木暁世先生がご着任なさいました。十月十一日に開催された大会でご講演いただきました。大会の参加者も増加傾向にあり、担当者としてはうれしかぎりです。

(杉山記)

○金沢大学国語国文学会の会員は誰でも機関誌「金沢大学国語国文」に投稿することができます。

○日本文学・日本語学に関する研究であれば、時代・分野を問いません。

○枚数は四百字詰め原稿用紙換算四十枚以内とします。ただし、特別号については、別に定める場合があります。

○投稿原稿の採否は編集委員会で決定します。

○編集委員は、毎年第一回目の理事会で選出いたします。

○投稿論文の送り先は左記宛にお願いします。

〒920-1192

金沢市角間町 金沢大学人間社会一号館

日本語学日本文学研究室内

金沢大学国語国文学会事務局

## 金沢大学国語国文学会会則

第一条 本会は、金沢大学国語国文学会と称する。

第二条 本会は、会員相互の国語国文学に関する研究の促進と連絡をはかることを目的とする。

第三条 本会は、前条の目的を達するために左の事業を行う。

一、研究発表会・講演会の開催

二、機関誌の発行

三、その他必要と認められるもの

第四条 一、本会の会員は、金沢大学文学部日本語学日本文学専攻・

国語国文学専攻および金沢大学法文学部国語国文学専攻ならびに金沢大学大学院人間社会環境研究科（日本語学日本文学関係）および文学研究科文学専攻（日本語学日本文学）・国文学専攻の卒業生・修了生、教員、またはこれに準ずるものとする。

二、元教員・元教官は特別会員とする。

第五条 本会には左の役員を置く。

理事 若干名

代表理事 一名

会計 一名

会計監査 一名

第六条 一、理事は会員の互選による。但し教官は理事とする。

二、代表理事および会計・会計監査は理事の互選による。

三、役員の任期は一年とする。但し再任は妨げない。

第七条 理事会は本会運営の責にあたる。但し必要に応じて編集

委員会等の専門委員を選出任命することができる。

第八条 会務を遂行するため、事務局を金沢大学文学部日本語学日本文学研究室に置く。

第九条 本会の経費は、会費その他をもってあてる。

第十条 会員は機関誌・会員名簿の配布を受ける。会員は機関誌・研究発表会において研究を発表することができる。

第十一条 会則の変更その他重要事項の決定は、総会の議を経なければならぬ。

総会は、年一回これを開く。

### 付 則

第一条 会費は年額二、〇〇〇円とする。

第二条 本改正会則は平成十二年四月一日から施行する。

金沢大学国語国文学会 第四十号

平成二十七年三月二十日 印刷

平成二十七年三月二十日 発行

編集 金沢大学国語国文学会

発行 金沢市角間町

金沢大学人間社会一号館

金沢大学国語国文学会

印刷 金沢市御影町十九一

ヨシタ印刷株式会社